入学式・入寮式

未来と自分のために

医学部医学科　**小林 美緒**（東京都市大学等々力高等学校出身）

入学が決まってしばらくすると、新入生代表として入学式で「昭和大学宣言」*を行うよう依頼されました。幼少期からチアリーディングをしていて、大会で人前で演技することには慣れていたものの、何かを話す経験がなかったので、たいへん戸惑いました。ただこれからの人生での良い経験になると思い、引き受けることにしました。

入寮の時は、友達ができるかな？同部屋のメンバーはどんな人かな？一緒にうまく生活できるかな？など、寮生活の楽しさよりも不安な気持ちをより強く抱きました。旗の台から富士吉田に向かうバスの中で自己紹介をしたり、どこから来たのか、趣味など、たわいもない話をしたりするなかで次第に緊張が解けていきました。入学式前日にリハーサルがあり、再び不安と緊張が増してきました。ただ、同部屋のメンバーや友達と一緒に話していると幾分緊張がほぐれていき、当日は無事に終えることができました。

入学式に際して久光正学長からいただいた「変えられないもの 過去と他人。変えられるもの 未来と自分。」という言葉がとても印象に残っています。過ごしてきた人生が異なる相手と生活を共にすることや、これからの勉学も簡単なものではありません。しかし、大学生活を通して真のコミュニケーションを学び、少しずつ学修を重ねて、成長していこうと心に誓いました。

*昭和大学宣言　ジュネーブ宣言（世界医師会）と昭和大学の理念に基づき、昭和大学の全ての学生、職員のために定められた6つの宣言

夜間防災訓練

夜間防災訓練の実施について

富士吉田教育部　学生部長　**堀川 浩之**

6月12日に夜間防災訓練を実施しました。本来は4月18日に実施する予定でしたが、コロナ陽性者が寮内で出たため延期となっていたものです。今回の防災訓練は富士吉田地区に地震が起こったことを想定して実施しました。夜間の場合、学生は寮から避難するため寮生の自主的な動きが大切になります。各寮ともに非常放送があったと同時に寮生は非常用持ち出し袋を持ち、室長の誘導にしたがって避難しました。フロア委員は室長の報告を受け、寮の玄関からは副寮長が先導し指定された避難場所に向かいました。寮長は全ての寮生の避難を確認したあと避難しました。学生それぞれが定められた役割を果たしたことで各寮とも10分ほどで避難を完了しました。避難場所では非常用持ち出し袋に追加するものの確認、寮担当からの総括で本訓練は終了となりました。

今回の訓練を活かし、自らの役割を果たしつつ患者さんの安全確保を第一に避難誘導できる医療者に育つためには、どのような心構えと準備が必要か考えてほしいと思います。

有事に備えて

医学部医学科　**村田 佳織**（頌栄女子学院高等学校出身）

6月中旬、寮祭直前のある夜、午後10時の点呼と同時に、警報が鳴り始め、防災訓練が行われました。当時百合寮の副寮長を務めていた私は、百合寮の学生が避難場所である体育館にスムーズに移動できるよう、落ち着いて誘導しました。

体育館に到着するとすぐに私は、皆さんが無事に到着できたかどうか確かめるため、各階のフロア委員の方々と連携を図りました。百合寮の皆さんの協力のおかげで、早い段階で安否の確認が取れました。私は、暗く、雨も降っている足元の悪い中、皆さんが怪我なく避難できたことを知り安堵しました。さらに、寮担当の先生方からスムーズに避難の誘導ができたとのお褒めの言葉を頂き、寮長と共に嬉しく思いました。

後日、寮長と協力し、有事を念頭に置いた避難訓練に関する学生の立場からの要望を大学に提出しました。実際、在寮中に地震等の天災に見舞われる可能性は否めません。そのような場合に落ち着いて素早く命を守る行動が取れるよう、訓練や普段からのシミュレーションは重要です。

今回の夜間防災訓練は、予期していなかった事態に直面したときの対応を各人が改めて考える貴重な機会だったと思います。

国際化ウィーク

医療者として目を向けるべきもの

医学部医学科　**堀江 麻理乃**（浦和明の星女子高等学校出身）

昭和大学は国連アカデミックインパクトという、国連と世界の大学をつなぐプログラムに加盟しています。その一環として富士吉田教育部では「国際化ウィーク」という期間を設けており、期間内の企画の一つとして、今年度7月1日には國井修先生（昭和大学医学部客員教授）による特別講演「紛争・災害・疫病と人類―グローバルな危機からいかに生命を守るか―」が実施されました。

講演を拝聴し、私は医療者が世界規模の様々な危機に目を向ける重要性を学びました。例えば、温暖化は医療者が目を向けるべき問題の一つです。温暖化と医療は一見無関係なものと思われるかもしれません。しかし温暖化はマラリアを媒介する蚊の生息地拡大、すなわちマラリアの流行地域拡大を引き起こしており医療者が注視すべき問題であるといえるのです。世界規模の危機が人々の生命にどのような影響を及ぼすのかについて、医療者として多角的な視野をもって考えることが、医療を通じて国際貢献をする第一歩であると感じました。

私は医療での国際貢献に関心があり、國井先生の講演を拝聴したことでその思いがさらに強くなりました。将来は医師として国際社会に貢献すべく、多角的な視野を身につけるために様々な国際交流の機会を積極的に活用しようと思います。

歯科医療の国際化

歯学部歯学科　**福田 実璃**（山形県立山形東高等学校出身）

昭和大学国際化ウィーク前期の取り組みとして、歯学部では大学のOB・OGであり、現在は御夫婦でシンガポールの病院に勤務されている先生のお話をライブ配信にて拝聴しました。主に、日本ではなくシンガポールで働くことを選ばれた理由やシンガポールでの歯科治療の実態、歯科医師の需要などについて伺うことができました。

今回、お話をお聞きしたことで、私自身の歯科医療への考え方や理想の歯科医師像の幅を広げることができたと思います。今までは「歯科医療」や「歯科医師として働くこと」と「海外」というものに繋がりを感じることがあまりありませんでした。しかし、この取り組みを経て、海外での歯科医療を身近に感じ、興味を持つことができました。

昭和大学では、学生のグローバルな視野を広げることができるよう、世界各国の大学と協定を結び、さまざまな国際交流プログラムや海外留学・実習をサポートしてくださることを知りました。これからはそのような機会を大いに活用し、海外の歯科医療について学びを深め、将来歯科医師として多方面から治療に携わることができるよう、精進していこうと思います。

白樺・百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第 43 号　2022.11.3 発行

発行責任者　富士吉田教育部長　倉田 知光
編集責任者　富士吉田教育部広報委員長　田中 周一
〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403

「秋晴れ」富士吉田教育部　准教授　前田 昌子　撮影

教授就任のご挨拶

昭和大学　富士吉田教育部　教授　**宮本 洋一**

4月1日付で富士吉田教育部の教授を拝命いたしました、宮本洋一です。生理学・生化学班に所属しております。まだまだ分からないことばかりで、皆様には色々ご迷惑をおかけしておりますが、何卒よろしくお願いいたします。

この場をお借りして自己紹介をさせていただきたいと思います。私は、1986年に化学メーカーの研究員として社会人生活を始めました。入社1年に満たない頃、会社員として、熊本大学医学部微生物学教室に派遣され、そこで5年間、さらに、昭和大学歯学部口腔生化学教室で3年間、研究生として楽しい研究生活を送ることができました。この頃に出会った人達は、人生の宝物となりました。1997年に会社を退職し、熊本大学医学部微生物学教室の助手となりました。そして、2002年3月には昭和大学歯学部口腔生化学教室の教員として採用していただきました。そして、私の職歴としては最も長い、20年1ヶ月を歯学部で過ごしました。

歯学部在職中は、たくさんの大学院生と研究を楽しむ経験をしました。彼ら彼女らが残した、ひとつひとつの論文を見るたびに、その当時の会話が蘇ってきます。また、講義の後や実習中に歯学部の学生との会話を楽しみました。学部学生や大学院生からは、富士吉田での生活の話を聞くことがしばしばありました。また、所属学部あるいは出身学部を超えた友人関係を目にすることも幾度もありました。全寮制で最初の学年を過ごすという、この大学独特の教育の素晴らしい成果のひとつと認識しておりました。

学生時代という、人生の貴重な時間を過ごす若者たちと接していることを以前から重要なことと認識していました。特に指導担任として、ひとりひとりの人生に関わることの責任を感じていました。富士吉田教育部に赴任したいまは、学生との触れ合いの密度が高くなり、これまで以上に、その気持ちが強くなっています。しかし、あまり気負うことなく、学生達と同じ富士吉田の新人として、試行錯誤しながら、少しずつ成長していけたらと考えています。何卒よろしくお願いいたします。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

体育祭

六色の軌跡

薬学部薬学科　**田部 ひなな**（浦和明の星女子高等学校出身）

ひとりでも多くの学生に体育祭を楽しんでもらいたい。ここ富士吉田キャンパスでのかけがえのない思い出にしてほしい。私はその一心で体育祭部門長に立候補いたしました。

競技やプログラムなどが大方決まっていた中高の運動会とは違い、学生が主体となって一から作り上げる体育祭。初めに考えたことは、チーム分けについてです。コンパ*単位で六色に分かれれば、ハチマキやカラーTシャツで華やかになると思いました。その後、学生全体にアンケートを取り競技を決定、企画書を何度も書き直し、競技のシミュレーションも行い副部門長や部門員の皆と共に準備に取り組んできました。そしていざ迎えた当日、誰しもが負けじと競技に全力で取り組む姿や応援合戦での盛り上がりを見て、胸がいっぱいになりました。どの色もこの日のために練習を重ねてきたことを知っていたからです。

支えてくれた部門員だけでなく、先生方や多くの方のご協力がなければ体育祭は成功できませんでした。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

*コンパ　指導担任ごとのグループを通称「コンパ」とよびます。

写真を撮影する
教育部長

全員で勝ち取った優勝

保健医療学部看護学科　**桐生 大輔**（東京農業大学付属第三高等学校出身）

私が昭和大学を志望した理由の一つは体育祭や寮祭など楽しいイベントがたくさんあるからです。その体育祭で自分がチームをまとめ、皆でよい体育祭を作り上げていきたいと思い、色別の各チームのうちの青チームのリーダーに立候補しました。

しかし百人近くをまとめるのは想像以上に難しく、思い通りにいかないことばかりでした。一方、他のチームでは応援合戦などの決め事や練習は順調に進んでいるのを見て、自分の中で焦りと、このままでは台無しになってしまうという危機感を抱くとともにリーダーとしての責任を強く感じていました。応援合戦の内容の投票を行っても票数が少なかったり、応援練習のために招集をかけても全員が集まらなかったりなど投げ出したくなる場面はたくさんありましたが、私を応援してくれる人たちの支えによって少しずつまとまるようになり、本番では皆が団結して競技、応援に取り組めていました。

その結果、優勝を獲得することができました。この体育祭を通して仲間の大切さを改めて感じることができました。この体育祭は「チーム」というものを学ぶことができたとても良い経験になりました。

皆のおかげで勝ち取れた優勝です。青チームのみんな、本当にありがとう!!

みんなで盛り上げた応援

保健医療学部理学療法学科　**横張 伊武希**（大東文化大学第一高等学校出身）

入学入寮してから約3ヶ月、寮での生活にも慣れ、人とのつながりも増えてきた頃にコロナ禍で高校生の時にはできなかった体育祭が大学で開催することになりました。そして、とても楽しく実施することができました。

なかでも、私は各色チーム対抗で行った応援合戦が特に印象に残っています。応援合戦ではありますが、ただただ応援するだけでなく、それぞれの色団でダンスやコント風の寸劇を取り入れるなど、面白みのある応援合戦になっていて、見る側も応援する側も楽しめる、面白みのあるものになっていました。私のチームでは、ツッパリのような見た目がイカつい系のダンスからかわいい系のダンスに変わるギャップを意識した応援でした。応援合戦を成功させようと、見た目もイカつい系を意識するためにみんなで衣装を揃え、夜にみんなで集まって振り付けを合わせるなど大変ではあったものの、思い出に残る貴重な体験となりました。

ほかのチームもペアダンスを取り入れたり小道具を使ったりとそれぞれ特徴のあるクオリティーの高い応援合戦になっていて、見る側でも充分楽しめる内容となっていました。

実行委員や各チームのリーダー、それぞれの色の団員、振付を考えてくれた人など様々な人のおかげで、なかなか味わうことのできない体験を味わうことができました。

寮祭

寮祭でしか味わえないモノ

医学部医学科　**長井 拓皇**（巣鴨高等学校出身）

私は令和４年度寮祭の実行委員長を務めました。今年度の寮祭は昨年度といくぶん異なり、前夜祭を含めた３日間に寮祭と体育祭を一体化させて開催しました。実行委員長の立場からみると、寮祭は２つの意味で特別なものです。

まずは、富士吉田キャンパスで、昭和大学一年生のみが生涯に一度だけ経験できるということです。寮生活かつ先輩方もいないという状況下で、同じ寮生活をしている一年生同士だけでゼロから作り上げるからこそ生まれる特別なモノがたくさんありました。

そして上記の体育祭･寮祭同時開催に加え、講義棟を一棟まるごと舞台にしたお化け屋敷、数年ぶりのキャンプファイヤーといった今年度ならではの各種イベントに加え、毎年恒例の花火などを通じ、昭和大学ならではの特別感を味わうことができました。

もちろん、昨今の新型コロナによる影響は少なからずありました。模擬店も飲食系ではなくお祭りの屋台のような出店に変更、感染対策からダンスやバンド、管弦楽部などでは練習が規制されたため練習の日数が不足したこと、さらには地域交流の一環であるバザーの中止も余儀なくされました。

そうしたなかでも最大限充実した寮祭となったのは、学生･大学が様々な観点で一つになれたからこそだと思います。寮祭に携わった全ての方々に感謝申し上げます。

最高の寮祭、そして夢の実現

医学部医学科　**秋山 颯一郎**（桐蔭学園中等教育学校出身）

今年の寮祭では、数年ぶりにグラウンドでの野外ステージを復活させ、学生や関係者向けに動画配信サイトを利用したライブ配信も初めて行いました。そして例年に比べはるかに多い 35 組の有志団体によるダンスや軽音楽、サークルの発表に加え、2 つのクイズ大会により、大いに盛り上がりました。

イベント部門長になり不安だった私も、準備が始まると、部門員やステージで発表する団体を学生から募集し、業者の方々と交渉したり、他部門と話し合ったりなど多くの仕事に追われるようになりました。また、昨年は前中夜祭部門･後夜祭部門･イベント部門と３部門に分けていたものを今年は“イベント部門”として統括したことにより作業をいくらか効率化できました。他方、すべての日程を把握し、まとめあげる必要が生じました。さらに、寮祭最終日の後夜祭の企画であるキャンプファイヤー、野外ステージでのダンス･軽音楽の発表などを実現させるため、様々な人と話し合い、使える時間をすべて業務に割き、準備をしました。

寮祭に向け、こだわりたいところは徹底してこだわるという姿勢を仲間や関係者の方々に真正面から受け止めていただけたことが何よりの支えだったと思います。この寮祭での思い出は、私にとって最高の宝物になりました。本当にありがとうございました。

短い時間につまった最高の思い出

保健医療学部看護学科　**西村 香花**（神奈川県立神奈川総合高等学校出身）

寮祭で発表ができると決まり、５月の活動計画を提出した矢先、新型コロナウイルスの脅威によってサークル活動が制限されました。楽器を演奏することができない状態の中で、オンラインで話し合い、選曲とアレンジをして、練習開始を楽しみにしていました。

6月に入り、サークル活動が再開された時には、寮祭まであと3週間弱でした。間に合うのか、という不安を後悔するくらい、練習時間は活気に満ち、どんどん完成度が上がっていきます。寮もアンサンブルのチームも超えてサークル員同士の仲が深まり、サークル長としてみんなの前で話す緊張もほぐれていきました。

充実した日々はあっという間に過ぎて、寮祭２日目になりました。昨日の体育祭で疲れてみんな寝ているのではないか、と笑いながら迎えた開演時間にはメンバーの友人がたくさん集まり、温かい拍手であふれる場になりました。それぞれが存分に練習の成果を発表し、友人に自分たちの新たな一面を見せられる場になったと思います。

本番までの期間を支えてくれた顧問の先生や、イベント部門、そしてサークル員のみんなに感謝してもしきれない、思い出に残る演奏会になりました。